

【受験生へ】小論文入試への取り組み④

段落構成 ～ 三段構成（序論 → 本論 → 結論） ～

国語科主任 八木

前回は「何を書くか（ネタ）」の重要性についてお話ししました。今回からは、「どう書くか（ワザ）」について、具体的にお話しします。全体の段落構成は、以下のようにします。

序論 … 主張の提示 問題設定・定義付けなど

これから論じようとする問題を明確に提示して、それをどのように論じるつもりであるかを明らかにします。問題を提起し、その問題を取りあげた動機、目的、その意義、問題の主要な論点などを明示します。提題語（テーマの中心語）の定義付けもします。

本論 … 主張の展開 具体例の提示 → 問題の分析 → 問題発生の原因の究明

問題を考察する中心部で、強力に主張（論旨）を展開します。自分の主張を支える証拠となる具体例を挙げて、自分の分析が的確で、説得力があることを論証します。文章の展開例としては、「過去→現在」という時間軸に沿った歴史的叙述による分析や、「全体（世界）→部分（日本）」という空間軸の変化によって問題発生の原因を明らかにする、といった方法があります。分析対象に適した展開の方法を選択するようにしましょう。

結論 … 主張のまとめ 問題の解決策の提示

主張（論旨）をまとめ、強調して全体をしめくくります。結論は、主張（論旨）の要約、考察の結果、問題の解決策をまとめて示すところです。

白々しい、美辞麗句で終わると台無しです。同じ内容の主張を、表現を変えて繰り返す（同義反復：トートロジー）のもいけません。つまり、うまいランディング（着地）が必要です。内容的には建設的な意見や提案で終わりにします。消極的な意見や悲観的観測は極力回避します。現実世界は問題の山積でシリアスなことは誰もがわかっています。その状況を少しでも好転させることはできないか。そのアイデアを出すようにしましょう。

※ 全体の構成のバランス → 序論と結論は簡潔にし、本論に十分なボリュームをもたせませす。本論の具体例で字数調整（蛇腹じゃばらのように伸縮させる）はするといいでしょう。